

## 新刊ニュース

### エンリコ・バイアーノ「チェンバロ教本」

チェンバロ教本、というタイトルで邦訳が出版されているが、副題には「ピアニスト、オルガニスト、チェンバリストのための実践的手引き」とある。特にチェンバロを習っているわけではなくとも、何らかの鍵盤楽器に携わる限り、必ず役に立つと思われる。どうかオルガンを弾いている方々も、ピアノの方も好奇心と向学心を持って本書を手にとってほしい。実践のための手引きであってもその奥には音楽の本質に触れることが宝のように隠されている。それを発掘し、創造的に活かしていく喜びがあることだろう。

訳者のお一人で、当グレゴリオの家の講師、坂由理先生が「オルガン研究」XLII(2014年)誌に書評をお書きになっておられるので、それも合わせてお読みくださると理解しやすいと思う。教則本ということで書籍ではなく楽譜扱いになるので、鍵盤の棚に並んでいる。

### Buxtehude, D. [Mit Fried und Freud]

ブクステフーデの葬送カンタータである。リューベックの学識者 Hanneken のために作曲された。タイトルとなった葬送のためのコラールと本来別々に作られた Klag Lied が彼の葬儀のためにひとつのものとして演奏されたものと思われる。美しい対位法書法が胸を打つ。オリジナルのファクシミリも付されているので参考になる。

### Bach, J.S. [Choralfantasie für Orgel, BWV1128]

これはシュミエダのバッハ作品目録新版にも載っていないバッハの新発見の作品である。新バッハ全集が完結した今後、このような出版が多くなると思われる。Wo Gott der Herr nicht bei uns hält に基づくコラールファンタジー。

18世紀から21世紀まで様々な人の手と経緯を経て今日、Halle, Martin-Luther-Universität(Quelle A), Leipzig, Bach-Archiv(Quelle B)に所蔵されている。実用楽譜として初版(Erstausgabe)がOrtus Musikverlagから出版されたので購入した。この出版社は教会音楽の初版出版に力を入れているらしい意欲的な出版社で、珍しい楽曲、知られざる名曲を今後も少しずつ購入していこうと思う。

杉本ゆり記